

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 29 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320135

研究課題名(和文) 第一次世界大戦後の世界秩序の変容と日本 - 新出「原敬関係文書」に基づく検討 -

研究課題名(英文) Japan and the change of the world order after the First World War: Study based on new "HARA Takashi Papers"

研究代表者

伊藤 之雄 (Ito, Yukio)

京都大学・国際公共政策研究科・教授

研究者番号：00203183

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,000,000円、(間接経費) 4,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、第一次世界大戦後の日本の政策転換を、新出史料「原敬関係文書」を活用しながら再検討した。主な成果は、以下の通りである。

1. 「原敬関係文書」の整理・目録作成を完了した。2. 論文集『原敬と政党政治の確立』(千倉書房)を出版した。内容は以下の通りである。(1) 児玉源太郎と原敬(小林道彦)(2) 原敬社長時代の『大阪新報』(飯塚一幸)(3) 原敬の政党政治(伊藤之雄)(4) 第一次世界大戦と原敬の外交指導(奈良岡聡智)(5) 原内閣の経済閣僚たち(伊藤孝夫)(6) 原敬と選挙区盛岡市・岩手県(伊藤之雄)(7) 政友会領袖・松田正久と選挙区佐賀県(西山由理花)(8) 原敬をめぐる「政治空間」(奈良岡聡智)

研究成果の概要(英文)：This study examined the change of politics and diplomacy in Japan after the First World War, based on "HARA Takashi Papers" which were recently found. The main achievements are as follows.

1. We finished rearranging, making copies and catalogs of the papers. 2. We published the book titled "HARA Takashi and the Establishment of Party Politics in Japan" (Chikura Shobo, 2014). The table of contents is as follows.
 (1) KODAMA Gentaro and HARA Takashi (Michihiko Kobayashi) (2) "Osaka Shimpo" under the presidency of HARA Takashi (Kazuyuki Iizuka) (3) Party politics of HARA Takashi (Yukio Ito) (4) The First World War and the diplomatic leadership of HARA Takashi (Sochi Naraoka) (5) Economic Ministers in the Hara Administration (Takao Ito) (6) Morioka and Iwate as HARA Takashi's constituency (Yukio Ito) (7) MATSUDA Masahisa and his constituency, Saga (Yurika Nishiyama) (8) "Political space" around HARA Takashi (Sochi Naraoka)

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：政治外交史 近現代史

1. 研究開始当初の背景

第一次世界大戦は、人類に未曾有の惨禍をもたらした。大戦が終結すると、欧米諸国では、「文明」の破壊に対する深刻な反省から、デモクラシーの風潮が高まり、帝国主義外交の見直しが行われるなど、「新秩序」の模索が始まった。日本も、この世界秩序の変容に鋭敏に反応した。日本においてこの変容に積極的に呼応し、政治、外交、経済、社会にまたがる大きな政策転換を図ったのが、大戦終結とほぼ同時に首相に就任した原敬であった。原敬こそが大戦後の政策転換を主導した最大のキー・パーソンであることは、衆目の一致するところであると言えるだろう。

第一次大戦の世界史的インパクトが多角的に研究されている欧米に比べ、日本の研究は立ち遅れている。大戦後の日本において、何が変わり、変わらなかったのか。変わったとすれば、それはなぜ、どのようにしてであったのか。この重要な問題に関して、原敬首相ら政策決定当事者の「内在的論理」や、政策決定の「具体的な過程」にまで踏み込んだ分析は、依然として不十分である。本研究は、このような問題意識のもとで、原敬首相の政治構想、政治指導や人物像の解明を通して、第一次世界大戦を契機とする世界秩序の変容を日本がどのように捉え、いかなる政策転換を行ったのかを解明することを目指すものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、原敬像を再構築し、第一次世界大戦後の日本における政策転換の全体像を提示することである。

3. 研究の方法

本研究の具体的な方法は、以下のとおりである。

(1) 新出資料である「原敬関係文書」(財団法人大慈会所蔵)の全面的な整理・分析作業を実行し、研究に活用した。

(2) 原敬記念館、憲政記念館、国立国会図書館憲政資料室、外務省外交史料館などが所蔵する原敬関係の重要な未整理史料の分析を進め、関係史料の収集を体系的に進めた。

(3) これらの史料を体系的に活用することによって、原敬の内在的理解を深めると共に、彼が首相として主導した第一次大戦後の政策転換について実証的・多角的に解明した。

4. 研究成果

(1) 「原敬関係文書」の整理・保全
3年間の研究期間を通じて、「原敬関係文書」の全貌を把握した上で、全面的な整理・保全作業(マイクロフィルム撮影及びデジ

タル化) 目録作成を行った。今後は、この成果の上に立ち、文書の保存・公開及び主要部分の出版などについて、関係者との協議を進めていく予定である。

(2) 2013年10月6日に盛岡市で「原敬内閣総理大臣就任95周年記念シンポジウム」を開催し、3年間の研究成果を公表した。参加者は約250名であった。当日の主なプログラムは、以下の通りである。

基調講演

「原敬とその時代」(伊藤之雄)

パネルディスカッション

・コーディネーター：木村幸治氏(原敬を想う会事務局長・原敬記念館元館長)

・パネリスト：金澤裕臣氏(金澤林業株式会社社長)、小沢一昭氏(原敬記念館前館長)、奈良岡聰智(京都大学大学院法学研究科准教授)

(3) 3年間の研究成果を盛り込んだ論文集『原敬と政党政治の確立』(千倉書房)を作成した(2014年7月公刊予定)。同書の概要は、以下の通りである。

第一章 児玉源太郎と原敬 台湾統治と統帥権改革・行政整理をめぐる対立と協調(小林道彦)

第二章 原敬社長時代の『大阪新報』 日露戦争期を中心に(飯塚一幸)

第三章 原敬の政党政治 英国風立憲君主制と戦後経営(伊藤之雄)

第四章 第一次世界大戦と原敬の外交指導 - 一九一四～二一年(奈良岡聰智)

第五章 原内閣の経済閣僚たち 高橋是清と山本達雄(伊藤孝夫)

第六章 原敬と選挙区盛岡市・岩手県 国際環境に適應する新しい秩序観と体系的鉄道政策(伊藤之雄)

第七章 政友会領袖・松田正久と選挙区佐賀県 原敬との比較から(西山由理花)

第八章 原敬をめぐる「政治空間」 芝本邸・盛岡別邸・腰越別荘(奈良岡聰智)

(4) この他、研究代表者・研究分担者が、それぞれ著書、個別論文や史料集の刊行を行った。具体的には5を参照。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計14件)

伊藤之雄「若き原敬の動向と国家観・自由民権観 郵便報知新聞記者の明治十四年政変」『法学論叢』170巻4・5・6号、33 - 105頁、2012年

伊藤之雄「若き原敬の国制観・外交観 『大東日報』主筆の壬午事変」曾我部真裕・赤坂幸一（編）『憲法改革の理念と展開（大石眞先生還暦記念論文集）』下巻、信山社、2012年

伊藤之雄「第一次世界大戦後の都市計画事業と景観問題の登場(1)京都市を事例に一九二〇年の転換」『法学論叢』171巻1号、1 - 23頁、2012年

伊藤之雄「第一次世界大戦後の都市計画事業と景観問題の登場(2)京都市を事例に一九二〇年の転換」『法学論叢』171巻2号、1 - 32頁、2012年

伊藤之雄「第一次世界大戦後の都市計画事業と景観問題の登場(3・完)京都市を事例に一九二〇年の転換」『法学論叢』171巻3号、1 - 26頁、2012年

伊藤之雄「明治天皇とその時代」『明治聖徳記念学会紀要』49号、290 - 309号、2012年

伊藤之雄「大正デモクラシーと都市計画事業の確定：京都市を事例に一九二一年後半～一九二二年前半」『法学論叢』172巻4・5・6号、1 - 45頁、2013年

伊藤之雄「伊藤博文の「メモ」は真筆の「メモ」の翻刻だ：水野直樹氏の所説への反論」『日本史研究』611号、41 - 55頁、2013年

小林道彦「日露戦争から大正政変へ 1901～1913 - 」『近代日本研究』29号、3 - 32頁、2013年

飯塚一幸「初期議会と民党」明治維新史学会編『講座明治維新5 立憲制と帝国への道』有志舎、53 - 86頁、2012年

瀧井一博「伊藤博文とユナイテッド・ステイツ(United States)」戸部良一編『近

代日本のリーダーシップ - 岐路に立つ指導者たち』(千倉書房)21 - 41頁、379 - 382頁、2014年

奈良岡聰智「陸奥廣吉-その人物像と英米との関わり」『関西英学史研究』6号、55-65頁、2011年

奈良岡聰智「加藤高明と陸奥廣吉」曾我部真裕・赤坂幸一（編）『憲法改革の理念と展開（大石眞先生還暦記念論文集）』下巻、信山社、2012年

奈良岡聰智「参戦外交再考」戸部良一編『近代日本のリーダーシップ - 岐路に立つ指導者たち』(千倉書房)43 - 71頁、382 - 389頁、2014年

〔学会発表〕(計1件)

・伊藤之雄(Yukio Ito)「日本の民主主義と天皇 - 明治・大正・昭和の三天皇」European Association for Japanese Studies, 24 August 2001, at Tallinn University (招待講演)

〔図書〕(計7件)

伊藤之雄編著『原敬と政党政治の確立』千倉書房、704頁(予定)、2014年

吉田清成関係文書研究会編『吉田清成関係文書』五(書類編一)(思文閣出版)567頁、2012年

川田稔『戦前日本の安全保障』(講談社)293頁、2013年

小林道彦・黒沢文貴編著『日本政治史のなかの陸海軍：軍政優位体制の形成と崩壊 一八六八～一九四五』(ミネルヴァ書房)274頁、2013年

家近良樹・飯塚一幸編『杉田定一関係文書史料集』第二巻(大阪経済大学日本経済史研究所)350頁、2013年

瀧井一博『明治国家をつくった人びと』(講談社)347頁、2013年

原奎一郎『ふだん着の原敬』(中央公論新社)257頁、2011年

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤之雄 (ITO YUKIO)

京都大学・大学院法学研究科・教授

研究者番号：00203183

(2) 研究分担者

・川田稔 (KAWADA MINORU)

日本福祉大学・子ども発達学部・教授

研究者番号：20115554

・伊藤孝夫 (ITO TAKAO)

京都大学・大学院法学研究科・教授

研究者番号：50213046

・飯塚一幸 (IIZUKA KAZUYUKI)

大阪大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：50259892

・小林道彦 (KOBAYASHI MICHIIHIKO)

北九州市立大学・基盤教育センター・教授

研究者番号：80211910

・瀧井一博 (TAKII KAZUHIRO)

国際日本文化研究センター・研究部・教授

研究者番号：80273514

・奈良岡聰智 (NARAOKA SOCHI)

京都大学・大学院法学研究科・准教授

研究者番号：90378505

(3) 連携研究者

なし